

# 社会的な見方・考え方を育てる授業のあり方

—「見えるモノ」から「見えないもの」のつながりへ—

居木 正<sup>1</sup>

人は自分と関係が薄いと感ずるものには無関心な傾向が強い。また他者の考えや行動のみならず、存在まで否定する対立や争いが絶えず起きている。これらの無関心や対立を越え、共生を目指すための社会的な見方・考え方とはどのようなものか、どのようにしたら授業の中で育てることができるのかを探った。

## はじめに

情報が一瞬のうちに地球を駆け巡り、世界が身近になったといわれる現代社会においても、人は自分とは関係が無いと思う社会や事象には無関心である。また、科学の発達とともに客観的な見方、論理的な考え方が広まっているにもかかわらず、自らの客観的正当性や利己的要求を主張するあまり、他者の存在までも否定する対立が絶え間ない紛争を生みつけている。

子供達に目を向けても同様なことが言える。氾濫する情報の中で自分の興味あるものには深く入り込むが、自分とのつながりが見出しにくく難解な社会事象には関心が薄い傾向があり、自分や自分達と同一歩調をとらない者を排除するいじめは、大きな社会問題となっている。

このような状況の中で必要なのは、共生を目指し社会に対し主体的に関わろうとする「社会的な見方・考え方」であり、それを育てることであると考える本研究のテーマとした。

## 研究の内容

### 1 社会的な見方・考え方とは

#### (1) 社会という存在と認識

社会とは、様々な事象（出来事）や人間、自然、文化などが複雑に関係しあって成り立つネットワーク状のものであると同時に、歴史の絶え間ない積み

重なりを持つ重層構造でもある。よって社会という存在は、混沌としていて形を持たない。

人はこの混沌とした社会を認識するときに、様々な共通性や違いなどの「観点」を持っていくつかの関係を切り取り、社会を形あるものとして捉えている。民族を例として説明すれば、地球上に住む何十億という人間を、「言葉などの文化で共通性を持つ人」という「観点」を持って区分けして捉えることによって、民族という存在が生まれ意識される。もし、そのような「観点」を誰も持ち出さず意識しなければ、言葉などの文化の共通性は顔の形や食事の好みの共通性など無限にある共通性の中に埋没し、民族という社会的存在も存在しなかったであろう。

この考えは「社会的存在が先にあってそれを人が認識をする」のではなく、「人が認識した時点で社会的存在が生まれる」という考え方に立っている。そして、この考え方は自己と他者の関係にも当てはまる。人が何らかの「観点」を用いて、自分または自分達とそうでない存在の間に境界線を引いて違いを認識した時点で、自己と他者が存在し始めるのである。もちろん全てが認識と同時に存在し始めるというわけではなく、「そこに物体がある」とか「そこで人が生まれた」という事実は、認識するしないに関わらず存在すると考えている。

#### (2) 社会的存在どうしの対立

存在し始めた自己と他者の間では、その違いが強調されていき、男女のようにその違い故に惹かれることもあるが、その違い故に対立もする。それは、ある事象を捉えるときに客観的に見ようとしても、それぞれが持っている「観点」でしか捉えようがないので、どうしても違った社会像に見えてしまう。

1 平成10年度 長期研修員（社会）  
藤沢市立六会中学校

見える社会像も違い、考える「観点」も違えば、それが原因で対立が起きるのも必然であろう。そして、考え方の対立にとどまらず他者の存在まで全面否定するに至れば、他者を殺しても良いという戦争が起きてしまう。

### (3) 共生を目指す見方・考え方

全ての社会的存在は「観点」を持って認識され、認識されると同時に存在し始める。また自己と他者の間にも「観点」を持った境界線が引かれている。ならば、その「観点」を自覚することが、自分及び自分達の見ている社会像・他者像や考え方を絶対視するのを防ぎ、自己と他者の境界を柔軟に捉え、他者の存在を全面否定するような致命的な対立を防ぐ力になると考える。しかし、誰もがいつでもこのような考え方に立つことを前提にするのは現実的でないとも考える。そこで社会のシステムが共生を成り立たせるようにすることも大切である。

以上のことをふまえ、共生を目指す社会的な見方考え方を、次のようなものとした。

- ①社会を自分も含めた様々な関係の中で捉えるとともに、社会の問題を自分の問題として捉える姿勢を持つ見方・考え方
- ②自己の観点を自覚する事によって自己の社会像を絶対視せず、時に応じて自分の観点を再吟味し、社会を捉え直す姿勢を持つ見方・考え方
- ③他者の捉えた社会像の観点を推し量り、共感的に捉える姿勢を持つが、どんなに共感できても絶対視しない見方・考え方
- ④社会のシステムを共生を可能にするシステムと捉え、そのようになっていないシステムを共生システムに変えていこうという姿勢を持つ見方・考え方

## 2 社会的な見方・考え方を育てる授業

上記①～④の見方・考え方を社会科の授業を通じて育てたいのだが、「はじめに」で取り上げたように社会に対する関心自体が薄い現実がある。そこで視覚で捉えきれない「見えないもの」である社会の存在・事象や自分の認識を、視覚で捉えられる「見えるモノ」を介して自分との関係性の中で感じ取れるように支援する。その授業過程の中で①～④を取り

入れ、生徒が社会の関係性や問題を見て考える場を作ることによって、社会的な見方・考え方のセンスが身についていくと考えた。

## 3 指導展開例

### (1) 九州地方を単元にした研究授業

#### ア 社会の関係性を意識し、

自己の観点を問うことに重点を置く

一単元という限られた授業の中で①～④全てを取り入れることは難しいため、今回の研究授業では①と②に重点を置いて指導してみた。

①の社会の関係性を意識する姿勢は「身近にある見えるモノを導入に使用し、生徒に九州地方の様々な事象と自分との関係を意識させるとともに各事象間の関連性を見いださせる」という作業の中で育てようと試みた。指導計画の第1時を例に取れば「身近にある中華鍋から鉄、鉄から日本最初の製鉄所とそこから始まる重工業の発展が今の日本の生活を支えるもとになった」という形で自分と北九州工業地帯は無関係ではなく、関係性があることに気づかせた。次に北九州工業地帯と「原料の供給地・商品の消費地」との位置的な関係や「鉄製品中心から電子製品中心の時代の変化」との関係に気づかせるようにした。また第6時において沖縄の基地等に関わる問題を自分の問題として考えられるようにするため、第3～5時では生徒達との関わりを意識した情報提供を行うことを心がけた。

②の自己の観点を問うことは、「沖縄の発展と基地」という意見の違いがはっきり出やすい問題を考える場面で行った。「生徒が基地の存続か廃止かを選んだ後に、自分の判断はどのような情報に重点が置かれているかを自覚し、その情報に重点を置く理由を自分に求める」ことにより自己の観点を自覚させようと試みた。

#### イ 各単元で繰り返し行う

①②に重点を絞っても、一つの単元だけで見方・考え方を育てることは難しいので、同様な指導を毎単元で繰り返し行う必要があると考えた。しかし社会科の授業では、見方・考え方とともに伝えなければならない基礎的事項が数多い。そのような状況の中で見方・考え方を育てる授業を繰り返し行うために次のような方法を考えた。

一つの単元を二つの小単元にわけ、指導する内容を最小限の基礎的事項に絞る小単元（今回は九州）

と、それによって生み出された時間を使用し、十分な情報と考える時間を与え、自己を問わせる小單元（今回は沖縄）とで構成する。

#### ウ 指導計画 『九州地方』

### I 九州 …2時間

#### 第1時 北九州工業地帯の変化と

##### シリコンアイランド

中華鍋・ゲームソフトから鉄・ICにつなげ、八幡製鉄所やシリコンアイランドなど九州の工業を説明し、位置的環境や自然環境また社会環境の変化との関係性を見つける。

#### 第2時 低地の農業、シラスの農業

さつまいも、薩摩の鶏肉、宮崎の牛肉、佐賀米観光パンフと九州各地域の産業をつなげ、自然環境との関係性を見つける。

### II 沖縄 …5時間

#### 第3時 沖縄の自然と生活

沖縄出身の歌手、沖縄中心の地図、観光ポスター、沖縄料理のメニューなどから沖縄の自然、文化とのつながりを理解する。

#### 第4時 沖縄の歴史

琉球切手などから米国支配、琉球王国につなげ沖縄独自の歴史と基地の現状を理解する。

#### 第5時 沖縄の産業

統計資料から、工業収入の少なさと観光収入の多さを読みとり、その理由と関係のある事象を第3,4時に学んだことの中から選び、関連性を意識する。サトウキビ、ゴーヤなどから沖縄の農業の現状を理解する。

#### 第6,7時 沖縄の未来像を考える

沖縄の基地問題を存続・廃止の両立場に立って考えることから沖縄の未来像を探る。その時に第3～5時に提示された沖縄に関する幅広い情報などをもとに、基地の存続・廃止が未来に与える可能性と問題性を考え、出し合ったうえで判断する。基地の存続・廃止双方に可能性と問題性があるにもかかわらず、一方を選択した理由を自分の中にある価値基準とそれを決めることに影響を与えた自分の生活環境や生育史及び出会い等に求め、自分の観点到に気づく。そのうえで自分の選択した立場の可能性を伸ばし、問題性を補うような未来像を一人一人が考える。

## (2) 研究授業の考察

### ア 社会の関係性を意識させることはできたか

事象間に関係性を見いだす力は高く、それまでに学んだ沖縄に関する事象の中から「沖縄の物産ショップだけが他県と違い、銀座で大成功した」という事象と関連するものを選ばせたところ、生徒達は第1表の枠で囲んだ事象との間に関係性を見いだした。

第1表

独自の文化	…本州等にはないユニークな商品が多い
貿易で栄えた歴史	…商売が上手い
美しい自然	…自然を売り物にした商品が作れる
暖かい気候	…本州等にはない熱帯性の作物がある
海に囲まれた離島	…みんなが行けないので
	珍しいものが多い

日本の南端的位置…直接買いに行ける位置ではない

経済的に考えるとき、不利な要因として考えがちな「海に囲まれた離島」や「日本の南端的位置」という事象との間にも生徒は関係性を見いだしている。これは指導者の予想を超えており、この指導を繰り返し行えば、社会やその事象を関係性の中で見て考える力が高められると思われる。

更に「社会の問題を自分の問題として考える」ことに関しても、かなりの成果が出たと思われる。それは沖縄の授業に入る前に行った調査で、「沖縄に神奈川を遙かに上回る基地があることについてどう思うか選択肢から選び理由を書きなさい」という設問に対し、多くの生徒はほとんど理由も無く存続や廃止を選び、「自分には関係ないのでどちらでも良い」を選んだ生徒もいた。それが、第6時に沖縄の基地の存廃を選択させたときには全員がその理由を書き、理由を一言で終えた生徒はわずかであった。その理由の中で一番多かったのは『今でも県の収入や雇用が少ないのに、基地が無くなって補助金や基地収入が減ったら、県民の生活が成り立たない。』というもので、自分の生活実感と結びつけ自分の問題として考えていた。存廃どちらを選んだ生徒も他人事として考えている生徒はほとんどいなく、自分の問題として主体的に考えることも含め、社会の関係性を意識させることはできたと思われる。

### イ 自己の観点を問うことができたか

次の文のように基地存廃の判断理由を自分に求め、自分の生活環境と関連づけ、観点が浮き出た生徒はいた。しかし多くの生徒は、可能性や問題性を羅列するだけで、「数ある中からどうしてその可能性や問題性を自分が重視したのか」を問い、自分の中へ

思考を向けることはできなかつたと思われる。生徒の反応も関係性を見つけるときとは対照的に、意見の少ない一方的な授業に陥ってしまった。自己の観点はもう少し違う形で問う必要性がある。

- 基地があると、やはりすごくうるさい。私は基地のある福生市に住んでいたが飛行機の音が物凄くうるさくて耳が変になりそうだった…略…基地は今すぐ無くなった方がよい。収入が減っても自然を元通りにする努力をすれば観光がもっと盛んになるし、自然が戻らないところには工場を造ればよい。(A子)

### (3) 基本的視点をを用いた指導の提案

研究授業を実施した結果、二つの重点的なねらいのうち「関係性を意識する」ことは比較的容易で一般化しやすいこと、他方「自己の観点を短期間の中で問う」ことは非常に難しいことがわかった。また(1)のイで考えたような方法で、毎単元同じ指導を繰り返して行うことは、生徒の負担であるとともに単元構成を硬直化してしまい、一般化しにくい。そこで新たな方法として、次のように段階を踏みながら、各単元ごとに少しずつ社会的な見方・考え方を取り入れる形を提案したい。

- ①まずは指導者が指導分野全体を社会的な見方・考え方を捉え、社会的な見方・考え方を可能にするフィルターとしての基本的視点を作成する。
- ②この基本的視点を生かして単元や授業を構成し、授業の中で生徒が社会的な見方・考え方に気づくように支援する。
- ③最後の単元やまとめ等で、授業で行ってきたことの意味を知らせたうえで、社会的な見方・考え方やその意義を理解させる。

研究授業で行った方法を、毎単元実施するのに無理はあるが、最後のまとめで行うのならば、一年間を通しての育ちがあるので有効な方法と考えられる。

#### 地理的分野での例

##### ① 基本的視点を設定

- 自分とのつながりを見つける
- 自然と社会(地域)とのつながりを見つける
- 社会(地域)の枠を一度固定して捉えるが、それを崩して別の枠で捉えてみる
- 自分が属さない社会(地域)を枠の外から見

るだけでなく、自分が枠の中に入ったつもりになって内から見ようとする

##### ② 授業で支援

- 各地域や様々な事象が自分ともつながりがあることに気づく
- 自然のうえに社会が成り立っていることに気づく
- 社会(地域)の枠が絶対的なものでないことに気づく
- 一つの事象も枠が変われば見え方が違うことに気づく

##### ③ 意義を理解

- 人間の生活は自然や社会のつながりの中で成り立ち、共生が必要であることを理解する
- 見え方は見る人の立場(観点)に左右されていることを理解する
- 地域の枠を取り替え、自分の立場(観点)を変えて見ることによって、自分達とは別の存在と共生の可能性が見出せることを理解する

#### 今後の課題

新たに考えた基本的視点を設定する方法は、研究授業で実施した方法に比べ急激に高度な思考を要求せずすむと思われる。また単元構成の自由度も高まり、指導者が今まで力を入れてきた指導の延長線として取り入れることを可能にし、現実的なものになったと考えられる。そこで、今後の授業実践を重ねる中で、技術的な問題を発見し解決していきたい。

また研究授業の中で、生徒達は客観的の正しさにとられるより、生活実感にとられた見方・考え方をするという痛感させられた。このことに対応した指導法を考えることも、これからの大きな課題である。

#### おわりに

本研究を進めるにあたり多くの資料を提供下さり、ご助言をいただいた沖縄県庁の方や那覇市立真和志中学校の校長先生、懇切丁寧な御指導いただいた神奈川県立教育センターの諸先生方、並びに快く研究授業に御協力いただいた藤沢市立六会中学校の先生方と生徒の皆さんにお礼申し上げます。